

第72回セメント技術大会 講演要旨原稿執筆要領

1. 講演要旨の体裁について

- (1) 講演要旨は、和文または英文で記述する。
- (2) 冊子版は白黒印刷、CD-ROM版はカラーで掲載されます。
- (3) 原稿は、A4判(幅210mm×高さ297mm)、横書きのものを2枚とする。余白は、上余白; 25mm、下余白; 25mm、左余白; 17mm、右余白; 17mmとする。
- (4) 原稿は1ページ当たり、25字×48行×2段組とする。ただし、1ページ目の1行目から9行目までは1段組として題目や著者などを記述し、10行目より2段組として本文を開始する。
- (5) フォントは、サイズを10.5ポイント(講演題目のみ14ポイント)カラーをブラックとし、字体は以下の通りとする。なお、PDFに埋め込みのできないフォントは使用しないこと。
見出し* ✓ ゴシック体(MSゴシックなど) ※大見出し、中見出しのみ
本 文 ✓ 日本語 明朝体(MS明朝など)
 ✓ 英数字 Times New Roman、Times
- (6) 文章は簡潔に、原則として常用漢字および現代かなづかいを用い、用語については文部科学省学術用語、JISおよび関係学会等の用語辞典から選択することが望ましい。
- (7) 文章の区切りには、全角の句読点「、」「。」を使用する。
- (8) 単位や記号および英数文字は半角を用いて記述する。また、単位はSI単位系を標準とする。
- (9) ギリシャ文字およびローマ数字は、半角英数字フォント(Times New Romanなど)を用いて記述する。
例 α、β、γ、I、III、VI、i、iii、vi など

2. 講演題目および著者の表記方法について

※ 版下原稿の作成時に、講演申込書の記載内容を差し込みます。

- (1) 講演題目は、1行目および2行目に、左詰めで全角3文字を空けて、14ptの明朝体のフォントを使用して記述する。
- (2) 著者名および所属は、4行目から7行目に、10.5ptの明朝体のフォントを使用して記述する。
- (3) 所属は、△△株式会社 △△部、△△大学 △△学部、△△大学 大学院△△研究科まで記述する。連名者の所属が、上記の著者と同一の場合は、所属の記述を省略する。
- (4) 著者名は、姓と名の間スペースを入れずに記述する。
- (5) 1講演当りの連名者数は、講演者を含めて4名以内とし、講演者名の前に○印を付ける。

例 (□は全角スペースを示す。)

1行	□□□ クリンカーの焼成条件と水和・・・	サイズ 14pt
2行	□□□	サイズ 14pt
3行		サイズ 10.5pt
4行	豊島大学 工学部	著者 1
5行	セメント太郎	著者 2(講演者)
6行	○ 利根太郎	著者 3
7行	桜橋建設株式会社 技術研究所 筑後次男	著者 4
8行		空欄
9行		空欄
10行	1. はじめに (2) △△△試験	本文(2段組)

3. 見出しの表記方法について

- (1) 大見出しと中見出しはゴシック体（MS ゴシックなど）で、小見出しは明朝体（MS 明朝など）で記述する。
- (2) 見出し番号は全角で記述する。
- (3) 大見出しは区分毎に 1 行を空けて、中見出し・小見出しの場合は行を空けずに、新しい見出しに入る。

例

1. まえがき ○○○、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 _____	← 1 行あける
2. 実験の概要 2. 1 使用材料 ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○。 2. 2 試験方法 (1) ○○○○試験 ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○。 (2) △△△試験 ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○。 _____	← 1 行あける
3. まとめ ○○○○、○○○○○○○○○○○○○○。 _____ 【参考文献】 1) ○○○○:○○○○○、○○○、p.○ (2009)	← 1 行あける

4. 数式・化学式の表記方法について

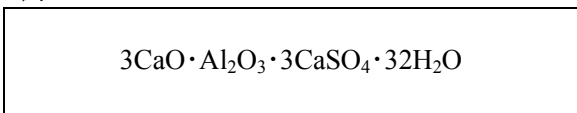
- (1) 本文と区別ができるように、数式の上下で 1 行ずつ空ける。
- (2) 左端から全角 4 文字を空けて、数式を記述する。
- (3) 数式の右端に、原稿全体にわたる数式の通し番号を括弧付きで記述する。その際、数式末尾から数式番号までの点線は付けない。
- (4) 本文中での引用は、式 [1]、式 [2]・・・のように記述する。

例（□は全角スペースを示す。）

……を以下の式[1]に回帰した。 _____	←1 行あける
□□□□ $y = \sqrt{ax} + b$ [1]	←1 行あける
□□□□ここに y : ○○指数 □□□□ a : 実験定数 □□□□ …… _____	←1 行あける
回帰するにあたり・・・	

- (5) 化学式は半角で記述する。

例



5. 図、表および写真の表記方法について

- (1) 白黒印刷で明確に判読できるよう鮮明に作成する。
- (2) 図・表・写真中の説明は、和文原稿の場合は和文、英文原稿の場合は英文で記述する。
- (3) 本文と区別ができるように上下1行ずつ空ける。
- (4) 図・表・写真の番号は、それぞれ独立した通し番号を付ける。
- (5) タイトルおよび図表番号は中央揃えで、表の場合は上端、図および写真の場合は下端に記述する。
- (6) 本文中での引用は、図1、表1、写真1(英文は、Fig. 1、Table 1、Photo. 1)のように記述する。

例

<p>に使用した材料の化学的性質を表1に示す。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>表1 使用材料の化学的性質</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 25%; height: 20px;"></td><td style="width: 25%; height: 20px;"></td><td style="width: 25%; height: 20px;"></td><td style="width: 25%; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 25%; height: 20px;"></td><td style="width: 25%; height: 20px;"></td><td style="width: 25%; height: 20px;"></td><td style="width: 25%; height: 20px;"></td></tr> </table> </div> <p>これらの材料を使用して、○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p>									<p>の結果を図1に示す。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>図1 焼成温度の影響</p> </div> <p>その結果、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p>

6. 参考文献の表記方法について

- (1) 前段より1行空け「【参考文献】」を記述し、改行した後に文献の詳細を記述する。
- (2) 文献番号) 著者名^{※1}: 論文題名、雑誌(書)名、巻号、発行所^{※2}、頁^{※3} (発行年^{※4})の順に、文献の詳細を記述する。
- (3) 本文中での引用は、¹⁾、²⁾のように片カッコの文献番号を上付きで記述する。

例

・・・らの結果¹⁾と同様の結果となった。

【参考文献】

1) 月山一夫、羽黒次朗：セメントの種類と○○に関する研究、セメント・コンクリート論文集、No.○○、pp.23-29(19○○)

2) 湯殿満男ほか：○○装置を用いた硬化コンクリート中の△△組織測定方法、セメント・コンクリート、No. △△、p.63(20△△)

← 1行あける

- ※1 著者名は、姓名の間にスペースを入れない。
著者が複数名いる場合、著者間の区切りは読点「、」を使用する。
著者が3名を超える場合は、筆頭著者以外を「ほか」として省略してください。
- ※2 参考文献が書籍の場合は、発行所を記述する。
- ※3 引用する頁が、1頁の場合は p.○○、複数頁の場合は pp.○○-○○と記述する。
- ※4 発行年は、月日を入れず両括弧で括り記述する。

7. 問合せ先

ご不明な点は下記までお問合せください。

一般社団法人セメント協会 研究所
 技術情報グループ セメント技術大会 担当
 TEL 03-3914-2692 FAX 03-3914-2690
 MAIL jca_event@jcassoc.or.jp

以上